

学 校 経 営 計 画

大田区立松仙小学校
校 長 早 見 泰 一

1 学校経営の基本的な考え方

- ① こどもたちがわかる楽しさや、学ぶ喜びを感じられる授業をめざし、こどもたちに確かな学力の定着を図る。
- ② 体力の向上を図ると共に、基本的な生活習慣を身に付け、心身ともに健やかなこどもたちの成長を支援する。
- ③ 保護者・地域の皆様との連携をより一層深め、信頼される学校をめざす。

2 学校経営の基本方針

① 学校の教育目標

人権尊重の精神に基づき、心身ともに健康で知性と感性に富み、郷土を愛し地域に貢献する心と国際感覚をもった児童の育成をめざし、次の目標を設定する。

- じょうぶな子ども(体)
- よく考える子ども(知)
- 思いやりのある子ども(徳)

②めざす学校像

(1) 思いやりのある児童の育成とともに、体力の向上を図る学校

- ・個に応じた教育を推進し、児童一人一人のもっている「よさ」や「可能性」を最大限に伸ばし、確かな学力の定着を図る。
- ・豊かな心をもち、たくましく生きる児童を育成する。
- ・体育授業の充実を図るとともに、休み時間には体を動かし体力を高める。
- ・人権教育を推進し、児童に思いやりの心を育み、いじめのない学校にする。

(2) すべてのこどもの学力向上が図れる学校

- ・基礎・基本を確実に身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を高める。
- ・こどもたちに、わかる喜びを味わわせる授業の展開をめざす。
- ・問題解決的な学習や、体験学習を取り入れた授業を展開する。

(3) 開かれた学校づくりを推進し、家庭や地域社会との連携を図る学校

- ・家庭や町会、自治会等と協働し、児童の健全な育成をめざす。
- ・ホームページの随時更新を行い、家庭や地域に情報を発信するとともに、学校に対する要望や依頼にも耳を傾け、地域に根ざした学校にしていく。
- ・「学校支援地域本部」(サポート松仙)の組織の充実を図り、支援を受けながら地域の人材を有効に活用した授業を展開していく。

③中期的目標と方策

(1) 松仙小学校の学校力の構築

- ・学びの充実を図り、児童一人一人に確かな学力を身に付けさせるために、基礎・基本の徹底と、学習意欲の向上を図る。そこで、校内研修を充実させると共に、校内研究を質的に向上させる。
- ・教員個々の指導力・授業力の向上を図るために、教員相互に学び合う場を設定し、組織力を高めていく。

(2) 地域に根ざした教育の充実

- ・学校支援体制の(サポート松仙)の充実・発展を図る。
- ・保護者アンケートや外部評価を活かして、学校改善に努める。

③ 今年度の取組の重点

☆「いつでも真剣」をスローガンに掲げ、全教職員の共通理解のもと、何事にも真剣に取り組ませることで、集中力・持続力を高め、体力・学力・規範意識の向上を図る。

(1) 体力の向上と豊かな人間性の育成

- ・「学力の向上は、体力の向上から」との共通理解を図り、一人一人の体力を向上させる
- また、児童理解のさらなる充実に向け、休み時間には教師も共に遊ぶ「とも遊び」の推進を図る。
- ・体育授業の質的向上と運動の日常化を図るとともに、道徳教育を充実させ規範意識を養う。

(2) 指導力・授業力の向上をめざした研究組織の構築

- ・「笑顔でいきいきと学ぶ子」の育成をめざした校内研究を推進し、より一層の充実を図り授業改善に努める。

(3) 地域環境を活かした特色ある教育の推進

- ・「サポート松仙」の支援体制を活用し、より充実した活動を展開する。

3 学校教育目標及び経営方針の具現化

① 学年・学級経営並びに、専科経営の充実

(1) 学年・学級・専科経営方針の具現化

- ・学校経営方針に基づいて、自己申告書を作成する。
- ・自己申告書に掲げた目標を具現化するために、環境整備と状況把握・改善に努める。

(2) 年間指導計画に基づいた週案の作成と実践

- ・PDCA(計画・実施・確認・評価)サイクルによる授業改善を図る。
- ・教材研究を十分に行い、授業準備を整え、日々の授業の充実にも努める。
- ・教育課程の進行管理を行い、計画的な実践を通して授業時数を確保する。
- ・安全に十分配慮した計画を立案し、事故やけがの未然防止に努める。

② 学習指導の充実

【主体的・対話的で深い学び】の実現に向けた取組

(1) 魅力ある授業の実践

- ・ねらいを明確にした授業を行う。
- ・体験的学習、問題解決的学習、習熟度別学習を活用し、児童の学ぶ意欲を高める。
- ・年間指導計画の見直しを図るとともに、学習指導計画及び一単位時間の授業の工夫・改善に努める。

(2) 多様な指導実践への取組

- ・算数においては、習熟度別・課題別学習を取り入れ、学習プリントや東京ベーシックドリル等を有効活用して学習の定着状況を把握し、個に応じた指導の充実を図る。そこで、学習指導講師による補習教室の実施や、「ダブドリLive!」の活用、保護者と連携を図りながらの家庭学習の定着を図り、確かな学力の定着をめざす。
- ・児童の体力の実態を把握し、「体力向上プログラム」を活用して年間指導計画を工夫改善する。
- ・電子黒板やタブレット等のICTを有効活用した授業を展開し、学習意欲を高める。

(3) 道徳授業の充実

- ・授業実践を通じた校内研究を柱に、道徳授業の工夫・改善に努める。
- ・道徳の授業時数を確保する。
- ・道徳授業地区公開講座では全学級授業公開を行い、協議会等の充実にも努める。

(4)外国語活動(外国語)の充実

- ・外国語専科教員の専門性を生かし、授業の充実を図る。
- ・ALTを有効活用した、授業内容の充実、工夫・改善に努める。
- ・教材、教具の整備と充実を図る。
- ・イングリッシュカフェの効果的な活用を図る。

③生活指導・進路指導の充実

(1)個性の伸長と、自信と意欲をもたせる教育の推進

- ・児童一人一人に向き合う教育を、推進する。
- ・一人一人の児童が自己肯定感を抱き、よさを発揮できるようにする。

(2)基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の定着をめざし、家庭と連携しながら取り組む。
- ・「元気のよいあいさつができる子」の育成のために、教育環境を整備する。
- ・学校、家庭、地域及び関係諸機関との連携を図り、児童の健全育成に努める。

(3)児童理解の充実と情報の共有化

- ・毎週金曜日に生活指導連絡会を実施し、いじめや不登校などの生活指導上の個々の問題について共通理解を図り、指導に活かす。
- ・スクールカウンセラーとの連携を緊密にし、個別対応の充実を図る。
- ・特別支援コーディネーターを中心とした校内委員会の実施及び充実を図り、組織的な体制を確立する。
- ・特別支援教室(サポートルーム)による、個に応じた指導の円滑な実施。

4 研修の充実

①校内研究の推進

- ・昨年度の研究を基盤に、授業実践を通じた研究の推進を図る。
- ・「おおたの未来づくり」を研究教科に設定し、5・6学年はそれぞれ1回の授業実践を通じた校内研究を行う。また、低中学年は系統性を考慮しながら教科・単元指導できるように、校内研究の工夫・推進を図る。

②研修への取組

- ・大田区教育委員会指導課主催の研修会・大田区教育研究会・東京都教育研修センター主催の研修会に、積極的に参加する。
- ・キャリアプランに基づき、自己研鑽に励み、計画的に研修に取り組む。

5 学校運営の充実と組織の活性化

① 学校運営の推進

- ・校長のリーダーシップのもと、副校長・主幹教諭・主任教諭との連携はもとより、全ての教員が学校経営に対する参画意識がもてるようにし、円滑な学校運営をめざす。

② 校務分掌事務の適切な遂行と、協力体制の確立

- ・校務分掌の責任の所在を明らかにすると共に、一人一人に役割を与え、経験を積みながら、個々のスキルアップを図る。
- ・それぞれの分掌において、一人の教員が主として携わる期間を設定し、引き継ぎが円滑に行えるよう、また組織的に行えるようにする。
- ・個人情報漏洩等の未然防止に努め、適正な管理のもと有効活用を図る。
- ・担任と専科教諭との情報共有の場を設定し、担任と専科教諭の協力体制をより強化することで、きめの細かい指導の充実を図る。

6 安心・安全な環境の整備

①危機管理意識をもつ

- ・毎朝、日計表を活用し、各学級の出欠席状況を把握し、報告する。
- ・首から上のけが全てについて、直ちに管理職に報告することを義務づける。
- ・月1回の安全点検を、毎回分担場所を変えながら実施することで、新たな目で危険箇所の発見に努め、素早い対応を心がける。
- ・週番による朝の登校指導、並びに休み時間の校庭の看護等の徹底を図る。
- ・関係諸機関と連携して、セーフティ教室を実施し、事件・事故の未然防止に努める。

②校舎内外の整備や美化

- ・教員も児童と共に清掃を行い、校舎内外の美化に努める。
- ・デッドスペースをなくし、危険箇所には立ち入れないような策を講じる。

7 家庭・地域との連携

①教育活動の公開

- ・学校公開や学校行事を通して、児童の活動の様子をより多くの保護者や地域の方々に見せる機会を設定する。
- ・学校だより、学年だより、ホームページ等で、学校の情報を発信する。
- ・アンケートや学校評価等を活用し、教育課程や教育活動の改善を図る。

②PTA・地域との交流

- ・地域教育連絡協議会との連携を図る。
- ・PTA行事、おやじの会、地域の行事への参加と協力体制を確立する。
- ・学校支援地域本部（サポート松仙）との連携を密にし、地域人材を活用した授業、活動を推進する。

8 学校予算の適正な編成と執行

- ・限られた予算を有効活用するために、短期的・中長期的展望に立ちながら、優先順位に沿って編成し、適正に執行する。
- ・使用されていない教室の消灯を徹底するなど、光熱費・水道代の節減に努める。
- ・教師に配布する印刷物の裏面使用など、全教員のコスト削減意識を高める。

9 信頼される教職員

- ・服務規律を遵守し、教育公務員としての自覚をもった行動を心がける。
- ・社会人としての自覚をもった言動を心がける。
- ・情報機器の活用等、時代の最先端にも敏感に対応できるよう常に意識し、自己研鑽に努める。
- ・児童や保護者の悩みや相談は、より誠実に、より丁寧な対応をこころがける。
- ・個人情報については、管理を徹底し、漏洩等の防止に努める。

10 その他

- ・「体力向上プログラム」を活用し、運動集会や小学生駅伝大会に向けた練習、「一校一学年一取組」等の実践を通して、子供たちの体力の向上を図る。
- ・大田区小学生駅伝大会に向けて、意欲的に取り組む。
- ・読書活動の充実を図るため、読み聞かせの実施や、図書館の整備を行う。
- ・小中連携の取組を、大森第十中学校と連携して推進する。
- ・補習教室を、週に1回実施する。
- ・移動教室の実施。 5年生・・・伊豆高原（2泊3日） 6年生・・・とうぶ（2泊3日）